

放射能分析結果報告書

NCV - 11718
平成26年 2 月 19 日

日本ハウジング株式会社 殿



株式会社 理研分析センター
〒997-0013 山形県鶴岡市道形町18-17
TEL 0235-24-4427 FAX 0235-24-4429
ホームページ : <http://riken-ac.com/>
お問い合わせ : cs_div@riken-ac.com

試験の結果を下記のとおり報告します。

1 試料の名称等

件名	放射能分析
分析項目	ゲルマニウム半導体γ線スペクトロメトリーによる ¹³¹ I、 ¹³⁴ Cs及び ¹³⁷ Csの測定
試料名	湯布珪藻土
試料採取情報	-
試料採取日	-
分析日	平成26年 2 月 19 日
特記事項	特になし

2 測定結果

上記試料について測定した結果は以下のとおりです。

核種	結果	検出下限
ヨウ素-131	検出下限値以下	1.9 Bq/kg
セシウム-134	検出下限値以下	2.0 Bq/kg
セシウム-137	検出下限値以下	1.8 Bq/kg

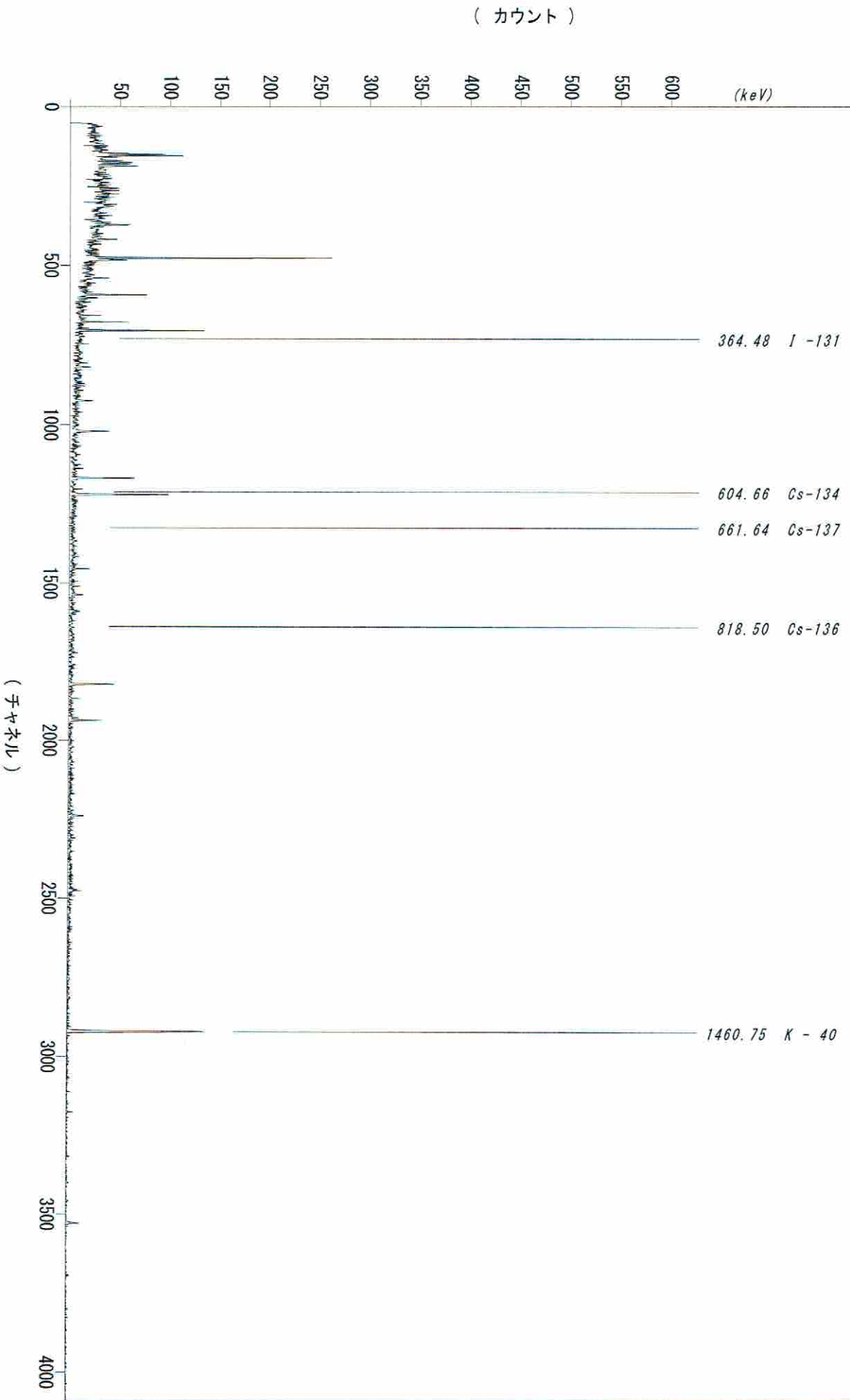
注1) 結果については、指定なき場合減衰補正を行わない結果である。

注2) 測定機器:ゲルマニウム半導体検出器 ORTEC 社製 GEM 45-76

V11718-140219-MR. chn

ファイル名 : C:\segdata\Spec\その他\11718-140219-MR. chn
測定開始日時 : 2014年 02月 19日 15時 12分 56秒
コメント :

ライブタイム : 1800 秒
リアルタイム : 1801 秒
チャンネルサイズ : 0 - 4095 ch



スペクトルチャートとは？

報告書に同封されているスペクトルチャートは、放射性物質分析した時に得られた波形の概要になります。
 どのような分析結果が得られているのかの参考としてご覧下さい。

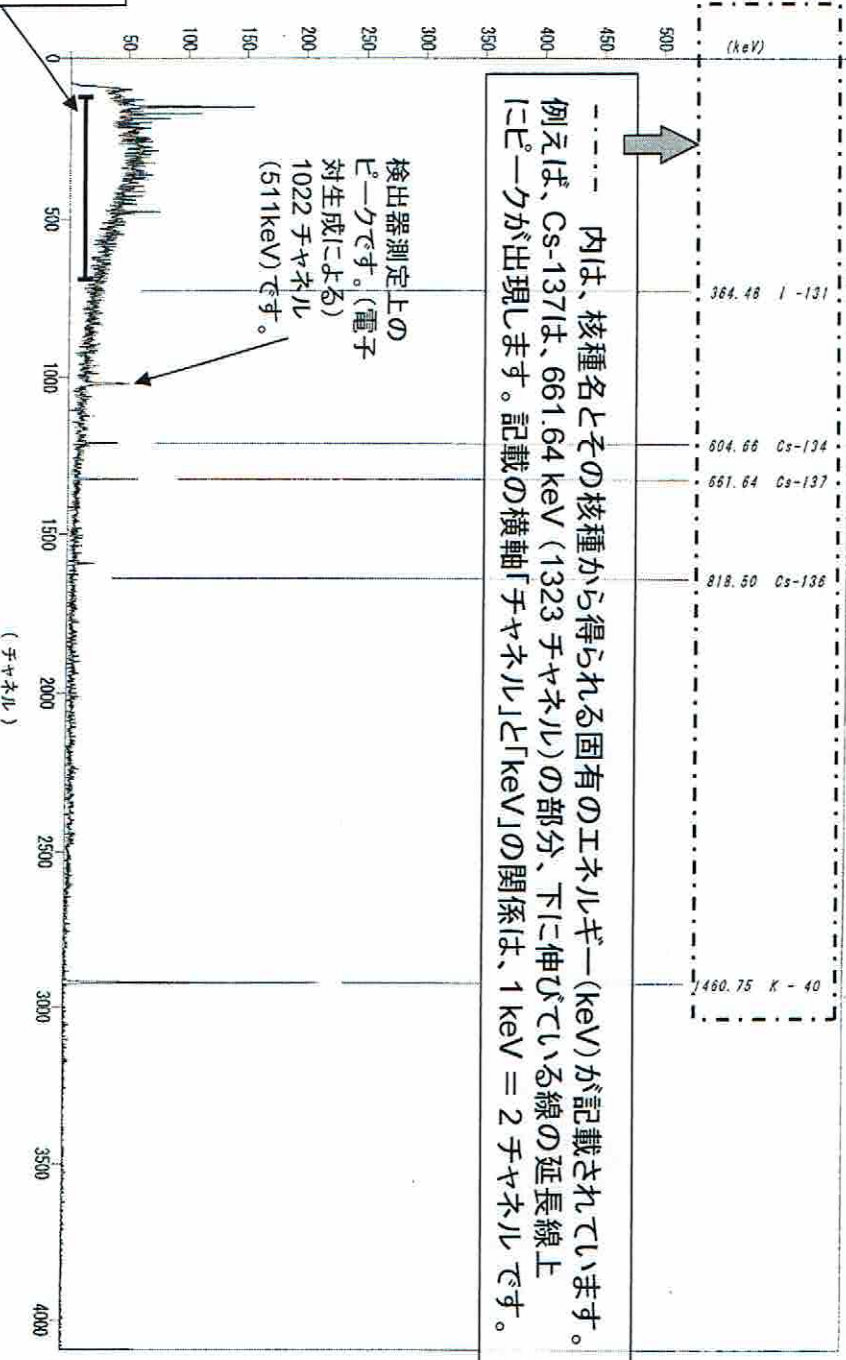
.chn

ファイル名 : C:\Spectra\Spec
 測定開始日時 : 2013年 01月
 コントラクト : 放射線

縦軸の「カウント」の高さは、その核種の反応の強さになります。基本的には大きいほど濃度が高くなります。

ただし、検出器や条件などによって大きさ・高さは異なり、濃度そのものではありません。ピークの有無などの目安になります。

全体的にチャートの左側においてには膨らみが大きくなっています。検出器測定上の特性になります。(コントラクト散乱、後方散乱等です。)



内は、核種名とその核種から得られる固有のエネルギー (keV) が記載されています。例えば、Cs-137は、661.64 keV (1323 チャネル) の部分、下に伸びている線の延長線上にピークが出現します。記載の横軸「チャネル」と「keV」の関係は、1 keV = 2 チャネルです。

検出器測定上のピークです。(電子対生成による) 1022 チャネル (511keV) です。

横軸の「チャネル」は、その核種の出現する位置、を示しています。例えば、Cs-137は、1323 チャネル (=661.64 keV) の位置にピーク中心が出現します。核種ごとの出現する位置の違いを利用して核種の同定(決定)を行います。